

名戸ヶ谷ビオトープだより

第52号 2013年冬号

<http://nadogaya-biotope.org/>

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会 発行

発行責任者：篠崎 将 Tel/Fax 04-7173-6353

台風前に脱穀終了しました

稲刈りを行って約3週間の自然乾燥後の9月29日、30日に会員による脱穀作業を行いました。乾燥中はなんとか、台風にも逢わず、雀さんにご馳走をあげたに留めました。

(脱穀後に台風が来襲、危機一髪でした)

脱穀作業は、今年も「足踏み脱穀機」2台と「唐箕」1台による手作業で、鼻の孔が真っ黒になってしまいました。初日は、おにぎりで軽食をとり、午後までの作業となりました。収穫量は昨年並みの手ごたえで、藤心ライスセンターに乗用車で持ち込み、籾摺りと精米を依頼しました。本当にお疲れ様でした。

収穫量は昨年並みです

今年の米の収穫量は、うるち米で245kg、もち米で167kg(玄米)、反当りは5.1~5.2俵とうるち米が昨年並み、もち米は大幅増収でした。

(うるち田を1枚もち田に変更しています)

全国的に米の収穫量は良く、東北地方では



反当り10俵近くの地域もあったと聞いています。消費が減少している中での増収ですが、ブランド米の価格はアップしています。ビオトープの米も「完全無農薬・有機肥料・不耕起栽培・自然乾燥」とブランド米に負けない米を作っています。収穫祭と、会員への配布を行いますので、美味しく食してください。

今年もお疲れ様でした

10月13日に乾燥用稲棚パイプの解体作業、20日に藁を切って田んぼに戻しました。これで、今年の作業は終了です。本当にお疲れ様でした。(小笠原 智)

秋の生態調査

10月15日(月) 9:30～11:30 実施

秋晴れの天気です。暖かくトンボや蝶が多くビオトープ内を飛び交っていました。

恒例の生態調査は柄澤氏ほか会員 5 名が参加して行いました。確認出来た個体数は 52 個で前年と比べ 2 個増加し、今年春に比べては 12 個減少でした。過去の推移から見て大きな変動はなく引き続き良好な生息環境を維持していると思われます。

又この他ビオトープの定例活動日を通して年間、会員同士が生きものを観察しています。



生態調査：アキアカネ

秋の生きもの観察会

10月20日(土) 10:00～11:30 実施



生きもの観察会：生きものたちを探しています



生きもの観察会：どんな生きものがいるかな？

晴れ上がった秋空の中、ビオトープ定例作業日と今回も同じくして生きもの観察会を行いました。

名戸ヶ谷小の児童 6 名、父兄 1 名の参加で、10 時から 11 時過ぎまで手に網を持ち、ザリガニ釣り場や B ゾーン一帯を駆けめぐっていました。定番のアメリカザリガニ、カダヤシ、スジエビ、ウシガエルのおたまじゃくしなどを掬く喜びでバケツに入れていました。カナヘビ、コバネイナゴ、エンマコオロギ、オオカマキリ、その卵や珍しいものでシュレーゲルアオガエルなども見つかりました。

終わりに松清幹事から捕獲したそれぞれ生物の詳しい説明に皆は熱心に聞き入っていました。

個体の名前をスラスラと答える児童もいて、この頃から生きものに親しみを持っていれば、将来自然環境保護の意識は高まって来ると思います。

(藤平 三郎)

子供たちが大勢参加しました

収穫祭 11月3日(土)開催



11月3日(土)文化の日に恒例の「収穫祭」が行われました。

この日は、数年来、何時も「晴れ」の特異日で「晴天」が当たり前なのですが……。今年は珍しく、雲も多く、朝の中は少し雨も降るなど、大いに心配しました。おまけに釜場予定地付近に、数日前から残土が運び込まれていて、取り除くのにおおわらわ……。

メンバーの皆様の何時もながらの手慣れた協力で準備が整然と進められ、ほっと胸を撫で下ろしました。

子供たちには、何としても「餅つき」を楽しんで貰おうと、「特製のポスター」を作成し、名戸ヶ谷小学校の丸山校長先生にお願いして、校内3ヶ所の掲示板に貼って戴きました。この気持ちが通じたのか、午前10時過

ぎには日差しも出てきて、名戸ヶ谷保育園の先生方々、子供たちが三々五々集まって来て戴いた時は本当にほっといたしました。やはり、ビオトープには「子供の声」が一番似合いますね!! 幹事の方、会員の方々も加わり、元気に、賑やかに、楽しく、3臼の餅を搗きあげました。早速、女性陣の手慣れた手さばきで、「餡ころもち」「黄粉餅」「下し大根餅」「お



にぎり」が作られ準備完了！！

結局、子供たちは30数名も参加してくれました。屋近くには、丸山校長先生も秋田の清酒を下げて来て戴き、会員の皆様、周辺の方等総勢70名余の方々の参加を戴きました。

青空の下、刈り取られた田圃とのどかな「ビ

オトープの風景」を見ながら、皆が美味しい出来たてのお餅、おむすびを食べ、飲み、大いに語り、今迄の苦労も忘れて「大地の恵み」を感謝出来た1日でした。

収穫祭の準備や調理に気持ち良くご協力戴きました皆様には、厚く御礼申し上げます。

(久米 正宏)



第11回定期総会開催！

1月26日(土) 10:00～13:00(懇親会まで)

「名戸ヶ谷ビオトープを育てる会」第11回総会が1月26日、名戸ヶ谷ふるさとセンターで開催されました。

出席数27名、来賓2名と多数の出席でした。会長、柏市環境保全課の中山副参事の挨拶があり、各担当者から報告と計画、決算・予算、監査報告があり、各議案が全員の拍手

で承認がされました。また役員改選も全員で承認されました。新役員は、橋本氏：稲作、星合氏：生きもの、藺田氏：合同作業(委託作業)です。よろしくお願ひします。

第2部で篠崎会長による「かしわの生きもの・四方山話」の公演があり、最後に昼食会で懇親を図りました。(小笠原 智)

ビオトープと私

山村和子さん

名戸ヶ谷ビオトープを育てる会には2009年からお世話になっています。それ以前の3年間は柏市自然環境調査に参加して柏市の自然の事を色々教わりながらボランティアの調査員をしていました。調査がだいたい終わりかかって、少し気が抜けたようになっていた時佐々木さんからビオトープのお話を聞き、入れていただく事にしました。ここは家からも近く、名戸ヶ谷湧水が豊富だった頃に週に一度は水汲みに来ていた場所でした。水汲みの順番をのんびりと待つひと時に平和を感じたことを思い出しました。



東京育ちの私にとって水田は故郷とか懐かしさとかのイメージではなくいつも新鮮さを感じさせる場所です。田植え直後の弱弱しく泥土に埋もれた苗が数週間後には風にそよぎ、水面に姿を映しています。その後は見るたびにぐんぐん育っていきます。目も心も楽しませてくれる風景です。

実際には田植えも草取りも、稲刈りも重労働で私は見ていることの方が多く、お手伝い出来る事はわずかです。でもその場面に自分がいることが何ともうれしく、誇らしい気分になるのです。黙々と稲作や草取り仕事に精を出し、お茶の時間には良く食べ、思い思いによくしゃべる、会員の皆さんの姿を見ているのもまた楽しいものです。

もう一つ。私にとってビオトープは別の意味をもっていました。

私がこの会に入る少し前から同居をはじめた孫と私との関係です。

普段はドラマのように「優しいおばあちゃんと可愛い孫」でばかりはいられない二人なのですが、ことビオトープに関しては不思議と話が合うのです。「気持ちの良い場所だね。」と。ヤゴを育てるために水田の水を汲んだりえさ取りをしたり、ジュズダマ採りをしたり。小笠原さんからメダカを分けてもらったり、等等。いつの間にか生き物観察会や収穫祭では常連さんになっていった彼女ももうすぐ6年生。そろそろビオトープ卒業となるのでしょうかこの場所が思い出の一つになってくれることでしょう。

いつまでも大人にも子供にも愛される名戸ヶ谷ビオトープであって欲しいと思います。

ビオトープの鳥：ヒヨドリ



全長約28 cmで「ヒーヨ」「ヒーヨ」と鳴いたり、かん高い声で「ピーピー」と鳴く。歩くときは樹上で過ごす鳥同様にホッピングする。ビオトープでは年間を通して観察することのできる都市鳥である。家庭の庭にもよく来るがメジロやシジュウカラなどを追い払ってエサを食べるので、嫌われている。

産卵は5～6月で、卵数は5～6個である。繁殖期はバッタやカマキリなど大型昆虫を好んで食べるが、秋から冬にかけては木の花や実を好んで食べる。ヒヨドリはモチノキ、アオキ、クロガネモチ、センダンなど多くの種類の実を食べることが知られています。食欲は旺盛で、次々と木の実を丸のみする。食べられた実は、種が未消化のまま糞とともに排出され、生育条件が合えばそこで成長します。正月に床の間などに飾られる赤いマンリョウの実は、果肉が固く地面に落ちても芽の出ることはありません。しかし鳥に食べられ、果肉が消化されて、種だけが糞とともに排泄されて、はじめて芽がでます。

種子の運搬役としてヒヨドリの役目は無視できないものがあります。住宅地の近くの林にマンリョウの幼木が多いのはこのためです。また庭に思いがけない木が芽生えたら、ヒヨドリが運んできたものかもしれません。

ヒヨドリは年間ビオトープで観察できると述べましたが、冬は寒い地方から暖かい地方へ渡ってきます。また夏は、餌の豊富な北海道や東北地方に渡る姿がみられます。ヒヨドリは昼間渡りますので、その姿を見ることができます。渡りのときは、帯状になったり団子状になったりして群れで海上を、水面ぎりぎりのところまで下がって飛びます。これはハヤブサなど大型鳥に襲われるのを、避けるためと考えられています。

いつも目にしている都市鳥も、厳しい自然の中で生活しているのです。

(篠崎 将)

名戸ヶ谷ビオトープに来てみませんか？

交通：柏市東口より東武バス（1番乗り場）「名戸ヶ谷行き終点（名戸ヶ谷病院前）下車すぐ

面積：約4,400㎡ 湿性生物：57種 生きもの：125種（内、千葉県指定保護生物24種）

（2006年、年間を通じて観察した生きものの種類）